別紙７　彦根城の顕著な普遍的価値の検討

彦根城は、17 世紀から 19 世紀半ばの日本において、武士が戦士から統治者へ自らの役割を変えることにより、200 年以上にわたって秩序ある安定した社会を維持した文化的伝統の物証である。

2 つの動きによって確立・維持された

①戦いが起こることのない、秩序ある安定した社会を維持する統治の仕組みを確立した

・将軍－大名－重臣の関係を軸とする秩序
・統治者の城への集住
・大名と重臣が組織的に領地全体を統治

②武士が統治者としての素養（徳と知）を高め、成長した

・中国に由来する学問・思想（儒学）
・朝廷が伝承する古典的教養（和歌など）
・武家社会が育んだ作法・精神（茶、能、武芸）
→起源の異なる 3 つの素養の総合的修養
東アジア世界の統治者に必要な「徳と知」

多様な統治の仕組みによって社会が営まれていた近代化以前の当該期の世界において、日本の武士による統治の仕組みは、他の地域にない特色を持っている。

3.2　比較分析（国外）

2.b　歴史と発展

2.b.1
武士の領地をめぐる戦いの時代

15 世紀後半～16 世紀　戦国時代
1576　織田信長、安土城を築く
1590　豊臣秀吉、全国を統一

2.b.2
秩序ある安定した社会を築くための統治の仕組みの確立

1600　関ヶ原の戦い
1603　徳川家康、将軍になる
1604　彦根城の築城工事開始
1606　天守が建てられる
1615　大坂の陣　→統一政権の完成
武家諸法度、一国一城令
彦根城の築城工事再開
1622 頃　彦根城の築城工事完了
（表御殿、重臣屋敷、石垣・堀など）
1664　将軍家が領知判物を一斉交付

2.b.3
武士の統治者としての成長

17 世紀後半～　全国で庭園造営が盛んに
1677-79　玄宮園、槻御殿がつくられる
1683　武家諸法度、「文武忠孝」を掲げる
1695　井伊直興、「畳の上の奉公」に励むよう家臣に訓示
18 世紀後半～　全国で藩校設立が盛んに
1799　藩校稽古館（後の弘道館）設立

2.b.4
武士による統治の終焉

1858　日米修好通商条約
1860　桜田門外の変
1868　明治維新
1871　廃藩置県
1878　彦根城の保存が決定される

2.a　資産の説明

天守（統治の正当性と永続性の象徴）
※櫓（天守の象徴性を補完）
表御殿（城主の居住空間、統治の中枢）
※槻御殿（第 2 の御殿）、**埋木舎**（庶子）
重臣屋敷（統治に責任を負う重臣の集住）
→石垣・堀で区画して一体化

玄宮園（城主と家族、重臣らによる和歌、漢詩、茶の湯、武芸などの総合的実践）
※表御殿、槻御殿（茶室、能舞台）
※埋木舎（茶の湯など庶子の総合的修養）

藩校弘道館（家臣への儒学を中心とする学問、武芸の総合的教育）

同時代の約 200 の城のうち、教科書的な構成を持ち、統治の仕組みをあらわす構成要素が真実性・完全性をもって全て保存されているのは、彦根城だけである。

3.2　比較分析（国内）